

観点別学習状況の評価（A～C）の事例とその評価基準

1 学校の実情

対象は、普通科とほぼ同等の教育課程で学んでいる総合学科の文型の生徒である。落ち着いた状況で学習ができており、標準的な学力を有している。

2 その観点で行おうとした理由

血液凝固は、化学などで扱う状態変化の凝固とは異なり、血球がフィブリンに絡められることで生じる現象である。それは、血餅の顕微鏡写真からも観察することができる。そこで、生徒に血液凝固の様子や血餅の顕微鏡写真を見せ、血液凝固のメカニズムを予想しようとする側面「粘り強い取組を行おうとする側面」を見取れるのではないかと考えた。また、血液凝固の知識を得た後で、自らの予想を振り返り、何がよかったり不十分だったりを表現させることと、最後に今後の課題を表現させることで「自らの学習を調節しようとする側面」が見取れると考え、本時を「主体的に学習に取り組む態度」を評価する時間とした。

3 評価基準 【主体的に学習に取り組む態度】の評価

- A 血液凝固の仕組みについて、動画や画像から分かることを表現し、それと関連付けてメカニズムを予想するなど見通しをもつことができている。学習後、自らの学習について振り返ったり今後の課題を表現したりするなどの学習による変容が十分認められる。
- B 血液凝固の仕組みについて、動画や画像から分かることを表現し、メカニズムを予想するなど見通しをもつことができている。学習後、自らの学習について振り返ったり今後の課題を表現したりする姿勢が見られる。
- C 血液凝固の仕組みについて、動画や画像から分かることを表現したり、メカニズムを予想したりすることができていない。また、学習後、自らの学習についての振り返りや課題を表現したりする姿勢が見られないなどの学習による変容が認められない。

※Cの場合は、ポートフォリオに赤字で記入の例を書き、次回以降に自身の思考の過程をポートフォリオに書けるよう支援する。学習指導案7(4)評価基準と同じ。

(4) 生徒の評価例

	①観察と②予想の記述 (粘り強い取組を行おうとする側面)	④I 振り返りの記述 (自らの学習を調整しようとする側面)	④II 今後の課題の記述 (自らの学習を調整しようとする側面)	評価の理由
評価 A の 例	<p>①赤血球が白い系に絡まって沈殿している。また、前後で液体の量が増えたり減ったりしていない。</p> <p>②赤血球が白い系(血小板?)にからまることにより赤血球と赤血球の間を狭くする。それによって、隙間から液体成分が流れないようにする。</p>	<p>白い繊維状のものは、血小板からできるものと思っていたが、血しょうからできるものであった。</p>	<p>それぞれの単語の意味と、それらの役割を理解して、今後の考察で正しい答えを出せるようにしたい。</p>	<p>観察と関連付けて具体的に予想をかけている。また、予想を振り返り、何が違っていたのかを記載できている。今後の課題も具体的に書けているため、「十分満足できる状況」と判断できる。</p>

評価Bの例

①最初は赤血球だけだったけれど、白い系みたいなものが出てきた。

②血液を固めるために、どこからか白い系が出てきて、赤血球を固めている。

○

血液凝固という言葉は知っていたけれど、働きは初めて知った。止血するときに自分の体内でこのようなことが起こっていることはおもしろいなと思った。

△

これから、ケガなどをして出血したときに、今回学んだことを思い出したいと思った。

△

観察と関連付けて予想を書けている。だが、振り返りが感想となっていたり、課題も学習とはあまり関係がない記述が見られたりする。そのため、「おおむね満足できる状況」と判断できる。

評価Cの例

①血液凝固が起こると、白い系のようなものが出てくる。

②空気に触れると、血液が固まっていく、人間でいうと、かさぶたができる。

△

予想と全然違っていた。

✕

固まる過程は見れたので、次は溶ける過程を見たいなと思った。

△

観察と関連付けて予想を書けていない。また、振り返りの記載が曖昧である。今後の課題も感想となっているため、「努力を要する状況」と判断できる。